日本語母語話者の韓国語学習者における意識調査研究
－大学での韓国語授業を通して－

梁　　正　善

일본어모국어화자　대학생의 한국어학습자의 의식조사　연구
－대학에서 한국어수업을 통하여－

YANG Jeongsun

개요

본고에서는, 일본어모국어화자 대학생을　대상으로 한국어학습 의식조사를 연구했다. 학습자의 학습동기와 목적은 무엇이며, 학습을 위해 어떤 노력을 기울이고 있으며 그 노력의 결과는 어떠한 형태로 나타나는지를 살펴보았다. 그리고 한국어를 배운 후의 이미지 변화는 향후 한국어학습에 어떠한 영향을 미치는지를 조사했으며, 한국어학습에서 어려운 부분은 어떤 것이며, 수업을 듣고 보충되었으면 하는 부분은 학습자에게 기술식으로 적게 했다. 결과로는 학습의 동기는"한국에 관심", "한류의 영향", "재미있을 것 같아서" 의 대답이 나왔고, 목적으로는 "한국여행" 과 "한국인과의 교류" 의 결과가 나왔으며, 학습을 위해 "예습과 복습", "드라마 시청" 등의 노력을 기울이고 있었다. 한국어의 이미지가 긍정적으로 변한 학습자는 차후 한국어를 지속적으로 할 계획을 가지고 있었으며, 수업중 보충해 주었으면 하는 점으로는 "의사소통수업 방식으로 회화수업과 한국문화 체험학습을 할 수 있도록 조성해 달라" 는 학습자의 요구가 있었다.

1．はじめに

「ハンリュウ（韓流）」「韓国ブーム」といわれる社会現象とともに、日本国内における韓国に対する関心は高まったと言えよう。その影響で韓国語や文化についての興味も増加し、韓国語学習者や韓国語教育も拡大しつつあると報告されている[1]。一方で、「大学等と高等学校の教員からみて、学習者が変化していることは間違いないが、学習者の量的な拡大と質的な多様化に教育制度が追いついていないのが現状である」と指摘されている[2]。

本稿は、大学における日本語母語話者の韓国語学習の意識を調べ、今後の日本における大学の韓国語教育の普及や拡大を図るため教育現状や分析結果を報告する。

2．日本における韓国語教育の現状

2002年のワールドカップサッカー日韓共催をきっかけに、日本では韓国の様々な関連情報が、テレビ･雑誌･インターネットなどのマス･メディアで数多く紹介されるようになった。また､「韓流[3]ブーム」の影響で、日本国内における韓国に対する関心の高まりはより一層強くなってきた。これは、大学における韓国語学習の増加にも顕著に表れている。小栗（2007）は、４年制大学における2002年度の外国語実施校の割合について、「2000年度の伸び率と比較すると、ドイツ語・フランス語が僅かながら減少しているのに対し、韓国語と中国語の実施率はそれぞれ6.4ポイント、3.6ポイント高く

なっている。」と報告している。

３．「韓国語」学習の意識に関する調査

３．１．調査の目的

日本における韓国語学習者の意識を調べ、韓国語教育の現状や課題を把握し、今後大学における韓国語教育の将来の方向や取り組みに活用するための材料とすることを目的とする。

３．２．調査の概要

調査は、2010 年 7 月、長崎外国語大学（以下Ｎ大学）とＪ大学での「韓国語文法Ⅰ」「韓国語会話Ⅲ」、「韓国語Ⅰ／Ⅱ」履修者 114 名を対象に韓国語学習者の意識及び認識に関するアンケート調査を行い、114 名（女性 106 名、男性 8 名）から回答を得ることができた。

アンケートでは、「韓国語」学習者の意識を深めるため、韓国語の学習動機、目的、学習に対する意識（学習のための努力、学習時の難しい領域）、韓国に対する関心・興味、韓国語を学ぶ前と学んだ後のイメージの変化を中心に調査を行った。

Ｊ大学での「韓国語Ⅰ／Ⅱ」は通年科目１コマ（90 分授業）の２単位である。Ｎ大学では「韓国語講読Ⅰ／Ⅱ」、「韓国語文法Ⅰ／Ⅱ」、「韓国語会話Ⅰ A/ⅡA」「韓国語会話Ⅰ B/ⅡB」「韓国語演習Ⅰ／Ⅱ」は、90 分授業で前期・後期を分けて１単位である。

３．３．調査内容と回答結果

３．３．1. 韓国語学習期間について

週に 90 分授業の学習を基準として「韓国語の学習歴」について尋ねた結果は〈表１〉のとおりである。「３ヶ月未満」と答えた人は 32 名、「６ヶ月未満」と答えた人は 39 名、「２年未満」と答えた人は 37 名にのぼる。これはＮ大学の韓国語コースを含む韓国語学習者とＪ大学での教養韓国語として１年以上学習した学習歴と言える。この結果を分析すると第２外国語学習者の殆どは大学に入った後から韓国語学習を始めた人が多いと推察される。

〈表 1〉

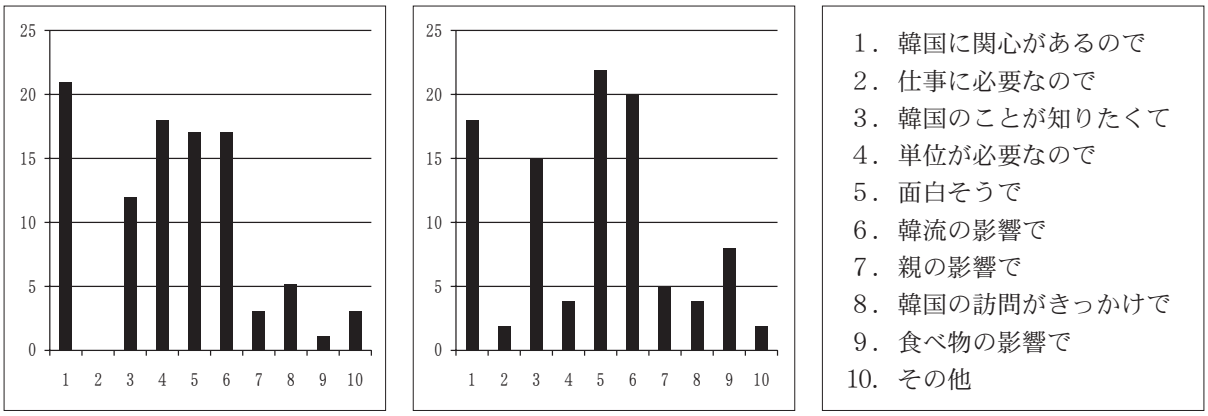
学習期間	１～３ヶ月未満	３～６ヶ月未満	６ヶ月～１年未満	１～２年未満
人数	32 名	39 名	6 名	37 名

３．３．２．韓国語学習動機について

外国語の学習には動機やきっかけがあると考えられる。調査の項目としては「韓国語学習の動機（複数可）」という項目を設けた。得られた結果をまとめると〈図１〉のようになる。この結果を分析してみると学習の動機として「韓国に関心があるので」と答えたのが一番多い 21 回答で 27％に至る。その次が「単位が必要なので」が 18 回答で 23％を占めることとなった。また、その次に多かった「韓流の影響」「面白そうで」と答えたのが 17 回答で 22％を占めている。一方、Ｎ大学においては、もっとも多い動機として「面白そうなので」と答えたのが 22 回答で 57％、「韓流の影響」は 20 回

答 52％を占めている。この結果を分析してみると、教養韓国語（週に１回）のＪ大学の学習動機としては「大学の単位」としてやむを得ずに学習するという面で、その動機が消極的と思われる。それに比べて、週に２回以上韓国語の授業を受けているＮ大学の韓国語学習者は韓国にかなりの関心をもち、また目標言語の文化についても興味をもっていることもうかがえる。

〈図 1〉学習の動機

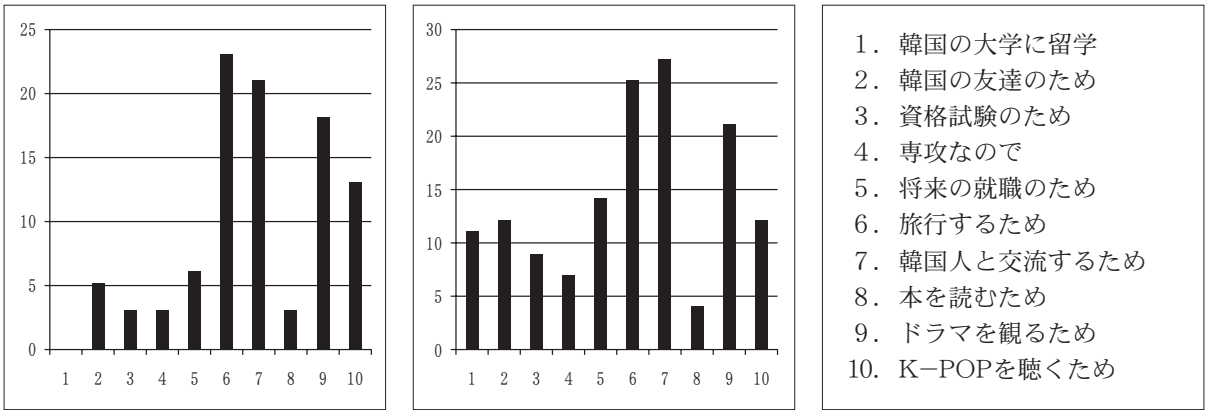


Ｊ大学　　Ｎ大学

３．３．３．韓国語学習の目的について

学習者の学習目的を調べるため、「韓国語学習の目的（複数可）」という項目を設けた。得られた結果は〈図２〉のようになる。Ｊ大学では「旅行するため」学習をしていると答えたのが最も多い 37 名 48％を占めた。その次が「ドラマを観るため」28 名 36％を占めた。その次が「韓国人と交流をするため」で 27 名 35％、「K-pop を聴くため」で 19 名 25％と続いている。一方、Ｎ大学では「韓国人と交流」が 27 名 71％、「旅行するため」が 25 名 63％、「ドラマを観るため」が 21 名 55％の順に現れている。Ｎ大学では韓国からの短期（半年）長期１年、２＋２制度[4]で来ている留学生がいるため、授業が終わったら学内で韓国語を使う機会があり、韓国語を通して交流を深めている。また、Ｊ大学もＮ大学でもほぼ同じ比率で「旅行するため」や「ドラマを観るため」の回答は「ハンリュウ（韓流）」「韓国ブーム」といわれる社会現象が大学の韓国語教育に影響をもたらした結果とも言えよう。

〈図 2〉学習の目的

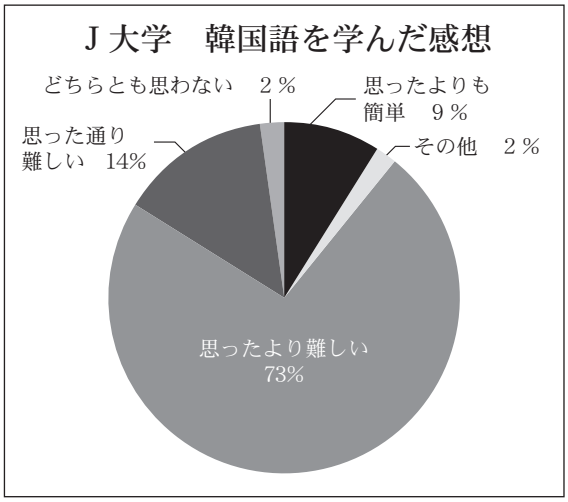


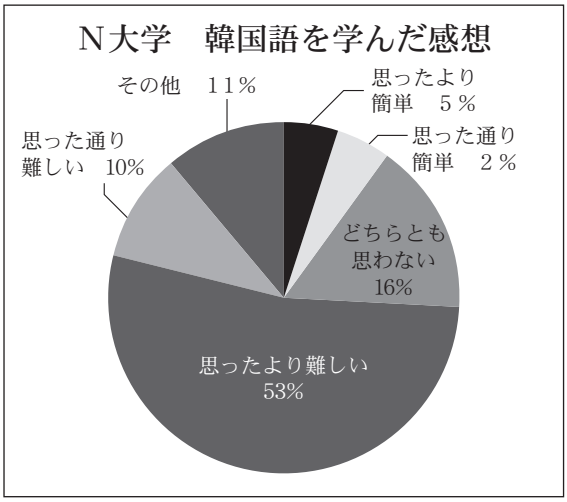
Ｊ大学　　Ｎ大学

３．３．４．韓国語の学習経験に対する感想

韓国語の学習経験に対する感想については、「思ったより簡単」、「思ったとおり簡単」、「どちらとも思わない」、「思ったより難しい」、「思ったとおり難しい」、「その他」の選択肢から一つ選ぶようにした。その結果、J大学では下の図３が示すとおり「思ったより難しい」が69％を占めており、次に「思ったとおり難しい」が13％、「思ったより簡単」が９％、「どちらとも思わない」が６％、「その他」が１％の順で現れた。これを難しいか難しくないかに分けてみると、全体的にやさしいよりは難しいと感じる82％傾向が強いことがわかった。N大学では「どちらとも思わない」16％という回答が目立つ。また、「その他[5]」が11％、全体的には難しいと感じる63％傾向が強いことが分かった。

〈図３　韓国語を学んだ感想〉

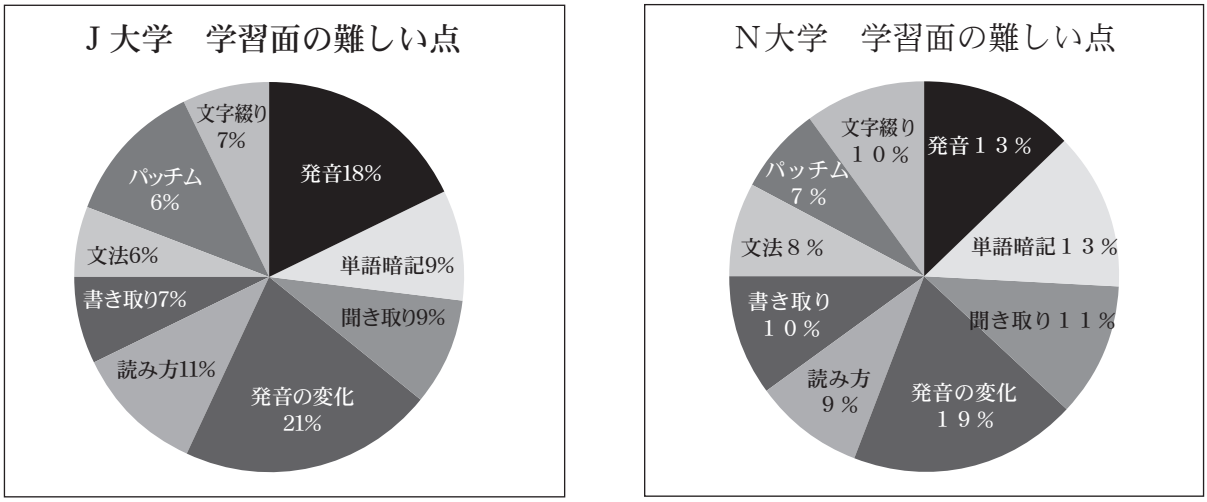




３．３．５．韓国語学習の難しい点

学習時の難しい点については、韓国語学習の難点として一般にあげられている「発音」、「単語暗記」、「聞き取り」、「発音の変化」、「読み方」、「書きとり」、「文法」、「パッチム」、「文字の綴り」を取り上げ、その中で何を最も難しいと思うかを質問した（複数可）。その結果は、図４に示したとおりである。もっとも多かった回答は（21％）の「発音変化[6]」で、両大学とも難しく感じる部分は同じだった。その次が「発音」、「パッチム」等の順で難しく感じることがわかった。一方、「文法」については、日本語と語順が同様であることもあり、学習時の難しい点として考える人は少ないようである。

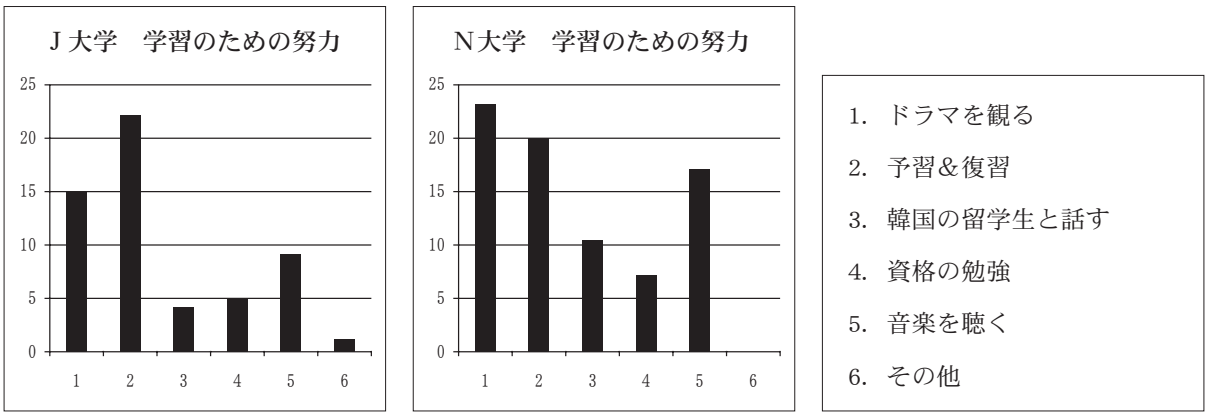
〈図４　学習面の難しい点〉



３．３．６．韓国語学習のための努力について

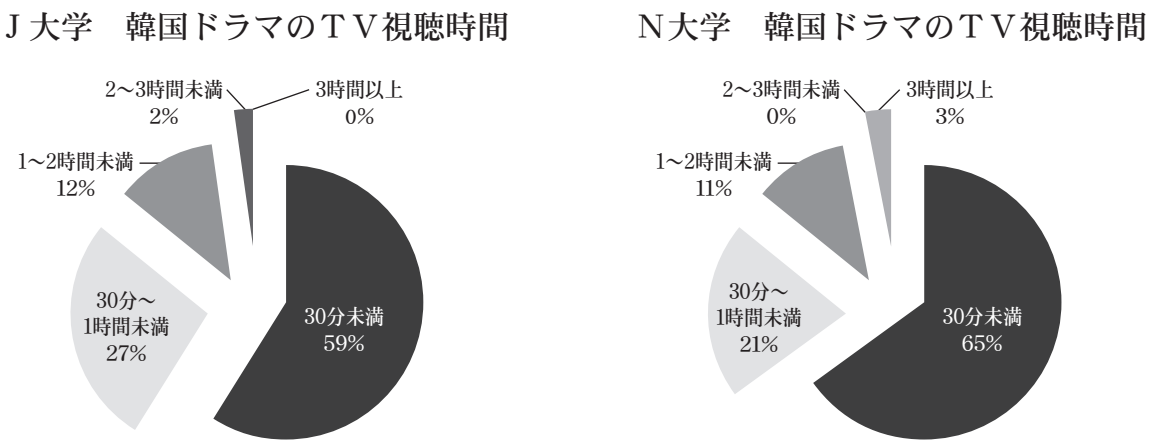
韓国語の学習における学習者の態度を調べるため、「韓国語学習のための努力をしていますか」について尋ねた。学習者の努力については、「ドラマを観る」、「予習＆復習をする」、「韓国人の留学生と話す」、「資格試験のための勉強」、「音楽を聴く」、「その他」の中から選ぶようにした（複数可）。その結果、〈図 5〉で分かるように、J 大学では「授業の予習＆復習をする」の回答が多く（22 名）、「ドラマを観る」(15 名)、「K-pop を聴く」(9 名)がこれに続いている。N 大学では「ドラマを観る」(23 名)、「予習＆復習」（20 名）、「K-pop を聴く」（17 名）で「ハンリュウ（韓流）」の影響でドラマや K-pop を聴く学生が目立ち、映像や音楽を取り入れた授業の形態を要望する学習者も増えている。

〈図５　学習のための努力〉

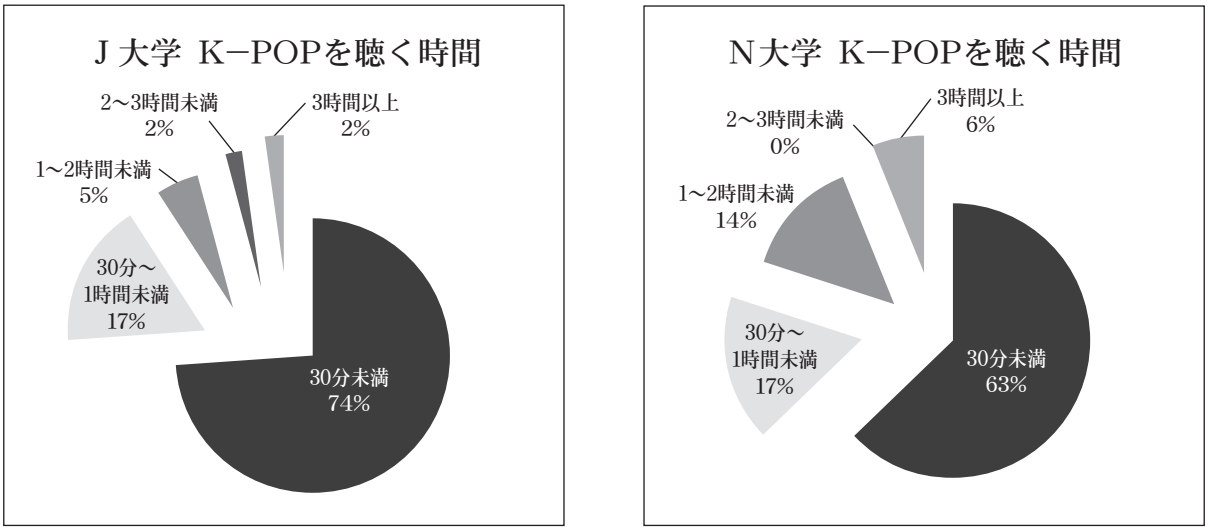


そこで学習者の文化領域ではどれほど学習が興味を持ち、努力しているのかを図ってみた。結果は以下の〈図５～７〉で示しているとおりである。

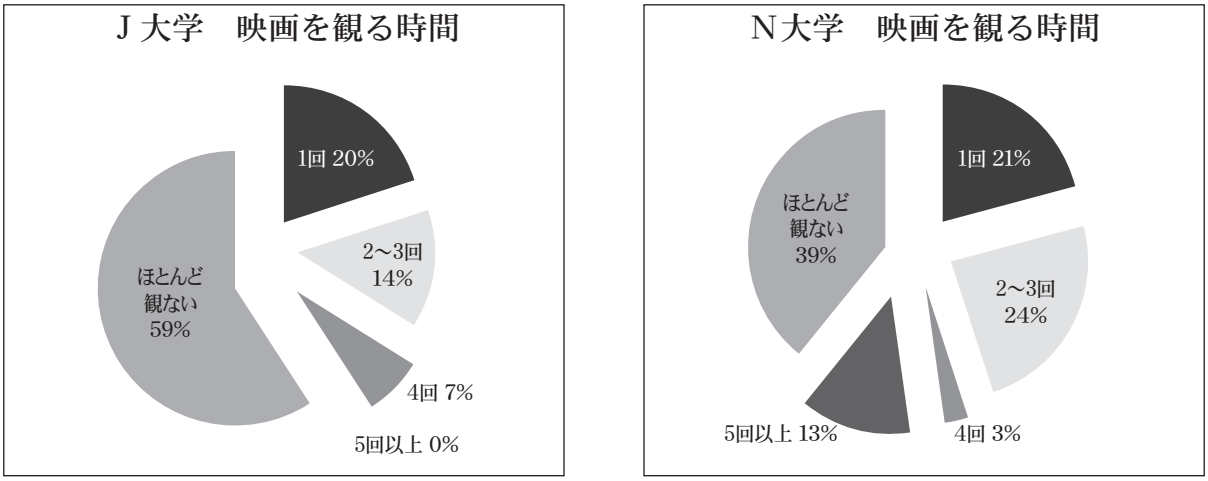
〈図５　韓国ドラマの TV 視聴時間〉



〈図６　K-POP を聴く時間〉



〈図７　映画を観る時間〉



映画観想はほんどしていないのに反してドラマやK-popは毎日触れている。この結果は、韓流スターの影響やメディアの普及によるものであると言えよう。J大学では1日TV視聴時間は30分未満が59%、N大学では30分未満が63%を占めている。また、K-Popを聴く時間は30分未満がJ大学は74%、N大学では63%で現れた。また、〈図5、図6〉のように殆どの学習者がドラマや音楽に触れていると言えよう。これらの結果を見ると、ほとんど学生が韓国語に触れていていると言えよう。ただし、ドラマや音楽を用いた授業は現在、設けていないので今後検討したい。

3．3．7．韓国語の学習前と学習後のイメージ変化について

韓国語の学習前と学習後で韓国語に対するイメージの変化が生じるかについて調べるために質問し、マイナスイメージ、プラスイメージに変わった理由を自由に書いてもらった。まず、結果をみてみると〈表2〉のようになる。「変わった」と答えた学習者の中19名「プラスイメージ変わった」と答えた。中には「文法体型が同じで親近感がわいてきた」、「結構規則的で、日本語に似ている」、「テレビや歌で使われている韓国語の意味が分かるようになった」、「ますます韓国語に興味が湧いたし、韓国語を学ぶのが楽しくなってきた」と記述している。しかし、マイナスイメージに変わったと答えた学習者の理由を見てみると、「韓国語を学ぶ前は簡単だと思っていたけど実際に発音変化がたくさんあるし、日本語にはないパッチムがあり難しい」、「思った以上単語の構成が難しい」と答えた学習者もいた。

〈表2　学習後のイメージ変化〉

韓国語を学習前と学習後の韓国語に対するイメージは変わりましたか？	変わった	43	プラスイメージに	19
			マイナスイメージに	10
			無回答	14
	変わっていない			41
	どちらともいえない			23
	その他（無回答）			7
				114

3．3．8．韓国語授業を受ける際、補ってほしい部分

日本語を母語とする韓国語学習者は以前と比べて徐々に増えると考える。そのなか、学習者が授業の中で補ってほしい点を自由記述形式で書いてもらった結果、様々な意見があった。しかし、ここでは原稿の制約などもあり、一部の内容だけを取り上げることにする。

自由記述による回答の内容を分析してみると、もっとも多いのは「会話をしたい」、「韓国文化についてもっと説明をしてほしい」という回答が多かった。また、「発音の変化」や「もう少しゆっくり進めてほしい」という要望があった。

〈表３　補ってほしい点〉

1. 発音、発音変化についてもっと説明してほしい。
2. 検定試験もやってみたい。
3. 韓国の文化について聞きたい。
4. 日常会話を話したい。
5. 授業の進みを少しゆっくりしてもらいたい。
6. 韓国の食文化や若者の文化について話してほしい。
7. 読むとき振り仮名をつけてほしい。
8. 韓国へ行った際に便利な言葉を学びたい。
9. 文法で日本語訳を書いてほしい。
10. 実用的なものを学びたい。
11. 単語をたくさん勉強したい。
12. K-POP やドラマの台詞を取り入れてほしい。
13. 体験授業を受けてみたい。（韓国の文化体験）

４．おわりに

以上、Ｎ大学の「韓国語文法Ⅰ」、「韓国語会話Ⅲ」とＪ大学の「韓国語Ⅰ・Ⅱ」の学習者を対象にしたアンケート調査に基づき、韓国語学習者の意識調査についての考察を行った。

まず、韓国語学習者の意識の調査結果では、韓国語学習の動機について「韓国に関心があるので」、「単位が必要なので」、「韓流の影響」などである。また、学習の目的に対しては「旅行するため」、「ドラマを観るため」、「韓国人と交流をするため」、「K-pop を聴くため」の順になった。これは「ハンリュウ（韓流）」、「韓国ブーム」といわれる社会現象が大学の韓国語教育に影響をもたらした結果とも言えよう。韓国語の学習経験に対する感想については、Ｊ大学は全体的に難しいと感じる（82％）傾向が強いことがわかった。Ｎ大学では「どちらとも思わない」（16％）という回答が目立ち、全体的に難しいと感じる（63％）傾向が強いことが分かった。学習時の難しい点については、「発音変化」、「発音」、「聞き取り」の順にあげられた。一方、「文法」については、日本語と語順が同様であることもあり、学習時の難しい点として考える人は少ないようである。一方、学習の取り組みである努力の項目では「授業の予習＆復習をする」、「ドラマを観る」、「K-pop を聴く」の順で、学習者の学習動機に指摘しているように韓国の文化を積極的に導入することにより、学習の興味分野と努力を基に学習者の動機を一層向上させることができるであろう。

次に、韓国語を学習前と学習後の韓国語のイメージ変化では、「変わった」と答えた学習者の中 19 名「プラスイメージ変わった」と答えた。中には「文法体型が同じで親近感がわいてきた」「結構規則的で、日本語似ている」、「テレビや歌で使われている韓国語の意味が分かるようになった」、「ますます韓国語に興味が湧いたし、韓国語を学ぶのが楽しくなってきた」と記述している。しかし、マイナスイメージに変わったと答えた学習者の理由を見てみると、「韓国語を学ぶ前は簡単だと思っていたけど、実際に発音変化がたくさんあるし、日本語にはないパッチムがあり難しい」、「思った以上に単語の構成が難しい」と答えた学習者もいた。最後の項目で、ある授業で補ったほしい部分では、「発

音変化についてもっと説明してほしい」という要望が多かった。また「韓国の文化について話してほしい」、「日常会話を話したい」を求める声も多かった。

本稿の調査においては、日本語母語話者の韓国語学習の意識を大学生に限定して調査したが、被験者を大学生に限らず、大学以外で韓国語を学んでいる学習者についても調査できるとさらに興味深い。最後に、「ハンリュウ（韓流）」の影響による言語の動機や努力も変わっている。これはメディアの発達によるもので、これから大学での外国語教育も変わってくるだろう。パソコンや I-phone、I-pod 等の普及でどこでも学習できるように、自立学習のサポートが必要になってくる。そして、大学生学習者の動機と目的とに近づけるために地域における適切な教材、また教授法（チームティーチング韓国人母語韓国語教師、日本人母語韓国語教師）の開発、教育担当者の定期的な研修会や交流会などを通して学習者により一層分かりやすく楽しい授業の形態を形成するべきであろう。

註

1　小栗　章（2007）「日本における韓国語教育の現在」『韓国語教育論講座　第一巻』　くろしお出版　pp. 51-68

2　小栗　章（2007）「日本における韓国語教育の現在」『韓国語教育論講座　第一巻』　くろしお出版　pp. 51-68

3　中国のみならずベトナム、日本等の東アジア各国で韓国の TV ドラマ、大衆歌謡等が流行することにつれ韓国の食べ物、服装、家電製品、パソコンゲーム、韓国型ヘアスタイル、カラオケ、サウナなどが人気を浴びた。韓国語学習のブーム現象が起きる一方、韓国のドラマロケ地観光、韓国のキャラクター商品等が流行する現象を韓国の文化流行（縮約して韓流）と定義する。（訳は（(조승혜(2008)「한국어 학습자의‘한류(韓流)’에 대한 인식 비교」『이중언어학 제 38 호』pp. 6）

4　協定大学に在学したまま本学で 2 年間学び、 2 つの学位を取得するプログラム。2007 年から中国・台湾・韓国の 10 の海外大学との協定により実施している。

5　英語よりは身につきやすいが、だんだんと難しくなってきている。最初は難しかったけど、慣れてきて楽しくなってきた。単語の暗記が難しい。アルファベットじゃないので 0 から学べるのが楽しい。発音が難しい

6　「発音」、「発音変化」の学習難問と言われ、指導には十分注意を払い日本語に照らし合わせて説明し絵で示した。例えば、鼻音（ㄴ，ㅁ，ㅇ）「サンタ、サンマ、マンガ」、促音（ㄱ，ㄷ，ㅂ）「アック、アット、アップ」で発音練習を行った。一度に学ぶには量が多く、学習者が十分に消化できない可能性が高いことを考慮し、文章や会話に例が出てきたときに、その都度ごとに反復指導を行った。しかし、週に 1 回の授業を行う J 大学では時間の制限、または学生の人数（韓国語Ⅰ 45 名、韓国語Ⅱ 30 名）と口を開けたがらないことにより十分指導が出来なかった。N 大学では韓国語コースの学生以外に韓国語の授業を 1 科目だけ受講している学生がいる。こういう学生には特別補充資料を配り発音指導を行ったが、発音の要領を的確につかむことが出来ず、授業中に私語、居眠り、欠席等の積極的に授業に臨んでいるようには見えなかった。

参考文献

[日本語で書かれた論文]

小栗　章（2007）「日本における韓国語教育の現在」『韓国語教育論講座　第一巻』 くろしお出版 pp. 51-68

曺美庚（2009）「e-Lerning システムを活用した自立学習環境づくりの試み－韓国語教育にいける実践を中心に―」『大学教育』Vol4、九州大学高等教育開発推進センター、pp. 43-59

林　炫情・姜　姫正（2007）「韓国語および韓国文化学習者の意識に関する調査研究」『広島修道大学人間環境学研究』 5(2)

[韓国語で書かれた論文]

조승혜（2008）「한국어 학습자의 ‘한류（韓流）’에 대한 인식 비교」『이중언어학』제 38 호 pp. 1-42

yang@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp